

教会に行き始めたころ、「わたしは神さまからのめしを受け」と語る方がおられました。わたしは「神さまから特別な食事でももらえるのかな」と思っていました。この「めし」が「召し」、つまり「召命」のことだと知ったのは、随分経ってからでした。

召命とは、ある特定の奉仕に神さまが召し出すことをいいます。聖書には多くの人に対する召命物語が多く載せられています。

旧約聖書にはモーセ(出 3:4~12)や、イザヤ(イザ 6:1~8)、エレミヤ(エレ 1:1~10)といった預言者に対して、神さまが召される場面が出てきます。

また新約聖書には、イエス様が四人の漁師や徴税人レビを招かれた物語や、十二弟子が派遣される記事も出てきます。さらにパウロも召命を受け、回心して異邦人伝道へと遣わされていきます。

しかし召命は、預言者や使徒、伝道者にだけ与えられるものではありません。また特別な能力や才能がいるわけでも、知識が必要なわけでもありません。神さまがある人を一方的に選び、見つけ出し、声を掛け、招き、召すのです。最初の弟子であったペトロやアンデレも、ただの漁師でした。しかしイエス様は彼らを見て、ただ一言、「わたしについて来なさい」と言われたのです。決して彼らが特別だったわけではありません。

教会(エクレーシア)とは、「召命(クレーシス)を受け、呼び集められた者たち」という意味があります。わたしたちもまた、神さまの一方的な招きにに応じて集められました。自分の力では何もできないかもしれませんが、しかし神さまはわたしたち一人一人にたくさんの賜物を与えてくださいました。その賜物により頼み、神さまの召しに応え、歩んで行きましょう。

次回は「贖罪」です。お楽しみに。



「聖マタイの召命」

カラヴァッジオ

(1571~1610年)

そのとき、わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」わたしは言った。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」

(イザヤ書 6章 8節)

